

## モーター・シティ デトロイトの変貌

**自動車産業の首都** 日常生活において自動車への依存度が高いアメリカ合衆国では、自動車産業は経済活動の顔として特別な意味を持っている。

合衆国の「製造業地帯」に位置するミシガン州のデトロイトは、ビッグ3と称されるゼネラル・モーターズ（GM）、フォード、クライスラー（合併し現在はダイムラー・クライスラー）の本社や主要工場が立地し、モーター・シティとも呼ばれ自動車産業の首都となっている。

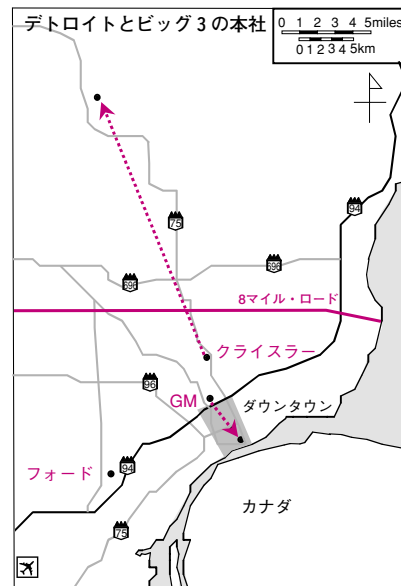
第二次世界大戦後、とりわけ1950年代は大量生産方式に基づきデトロイトが経済的に繁栄した。音楽会社モータウンのもとでダイアナ・ロスやステイシー・ワンダーを生み出し、文化的にも輝いていた。

その後、合衆国の自動車産業は、硬直な大量生産方式や環境問題への対応の遅れから、国際的な競争力を失う。自動車産業とその首都デトロイトは苦難の道を歩んでいく。

**中心都市と郊外の分断** デトロイトの苦難は、自動車産業の危機からだけでは説明できない。中心都市と郊外の分断が、都市デトロイトの衰退に拍車をかけた。合衆国の大都市圏は、「ZIPコード（郵便番号）の地理」といわれるほど、地区ごとの住民の特性が明瞭で格差も激しい。国というスケールでは「サラダボール」のような多様性がみられるが、居住地区のスケールでは同質性が極めて高い。

合衆国では、中上流階層の郊外志向が強い。デトロイト市は、裕福でない黒人の居住比率が高く、治安や教育環境への財源投入も限られ、貧困が貧困を生む悪循環に陥った。地図に示した8マイル・ロードは、デトロイト市と北部郊外との境界である。この道は、今年日本でも公開された映画「8 Mile」の題材でもあるが、人種的・経済的格差の境界となっている。8マイル・ロードより南を知らない郊外住民も少なくない。

**ダウンタウンのルネサンス** かつて栄華を誇った中心都市の再生が試みられている。ダウンタウン（都心部）へのてこ入れは、対岸のカナダを見下ろすようにそび



える1977年に建設されたルネサンス・センターに代表される。

1990年代末から、ゼネラル・モーターズの世界本社が、このセンターへ移転している。デトロイトが本拠とはいっても、地図に示すように、フォードの世界本社やダイムラー・クライスラーの米国本社も郊外にある。就業者の都心回帰が、中心都市の再生に寄与し、夕刻のダウンタウンに活気がでてきた。センターの名前どおりにルネサンスが実現するのか、今後の動向が注目される。

**自動車産業の頭脳** 合衆国の自動車生産は、かつてデトロイトを中心にミシガン州に集中していた。現在は、ミシガン州からテネシー州やアラバマ州へと南に伸びる地域に広がって展開している。

注目しておきたいのは、デトロイト大都市圏を中心とするミシガン州南東部が自動車産業の研究開発活動の拠点ということだ。ビッグ3とともに日系やドイツ系の自動車関連企業が、研究開発部門を強化して数多くの研究者を集め革新的な取り組みを行っている。

**参考文献**：榎泰邦（1999）：『デトロイトの復活』丸善ライブラリー。

（大阪市立大学大学院経済学研究科助教授 長尾謙吉）